

International Beauty Federation Member's Magazine

Linqwe.



Hair&Makeup: Yuka Iwai-IBF Photo contest(2019) winner Model: Oleysya Photo: Ayako

vol. 74

第16回 IBF フォトコンテスト結果発表！

テーマ「Jazz Age throwback」 入賞作品を各ブランド審査員の皆様からのコメントも併せて、ご紹介します！

【グランプリ】【MOTOKO賞】
【M・A・C賞】【ケサランパサラン賞】
IBFメイクアップフォトセッションご招待、その他各副賞。

■宮城 萌美(大阪モード学園)

タイトル 《Party》

コンセプト：1920年代、ジャズで使うトランペット、サックスのきれいなゴールドをアクセサリーやアイメイクにゴージャスに取り入れました。アイメイクは禁酒法の時代、ダークなイメージで濃いめのシャドウ、それでも欲望を抑えられず、音楽、パーティを楽しむ様子を感じるようにカラフルに仕上げました。

●審査員講評

「メイクの色、バランス、テクニクがとても綺麗で繊細に描かれていると思います。

アイシャドウの配色やテクニカル部分では実際20年代にはなかったスキルと思いますが、作品のタイトル「Party」の華やかさが表現され、又ダークな色で暗い背景も見え面白いです。コンセプト通りヘアスタイルからトランペット、サックスが想像でき、その上、全体の雰囲気でも20年代のJazzが奏でられている場所にタイムスリップした感が満載。

バック、ヘアスタイル、小物、メイク、総合的バランスが今回のテーマにfitされています。」(MOTOKO)

「カラフルな色遣いの中で、グラデーションが綺麗であるため、調和がとれている作品です。コンセプトにあわせた配色と質感選び、光と影を使ったライティングの面でも、メッセージ性を強く感じます。」

(M・A・C レジデント トレーナー 工藤 孝政)

「テーマに合ったヘアメイクになっており、全体のバランスがとても良いです。Partyに行けるようにゴージャスな雰囲気がとても伝わってきて、特にブルーのグラデーションが効いたアイメイクや、アイライナー、つけまつげなど、モデルさんの特徴を上手に活かしています。ベースメイクもハイライト、シェーディング、ファンデーションなどとても良い使い方になっています。また1920～30年代をうまく表現した特徴的なアイブローも目を引きます。」(ケサランパサランメイクアップアーティスト MONIKA)





【Linda Mason賞】

■徳永 紅葉 (ECCアーティスト美容専門学校)

タイトル 《Raw Dancer》

コンセプト：20年代でも現代でも変わることのないことがあります。現代では便利になり、時間や場所の制限も無いが生きているのは「生の人間」だということ。20年代の女性も現代の女性も自己表現のために命を燃やして、20年代とは違うカラフルな照明の中で一晩中踊っていた後だということをアイメイクの滲みや肌のでかり、ツヤ感で表現しました。

●審査員講評

「Love the concept. Imaginative and very Jazzy with a modern Freestyle approach which enhanced the beauty of the model.」 (Linda Mason)

【MOTOKO賞】

■里村 友歌 (ECCアーティスト美容専門学校)

タイトル 《Star》

コンセプト：小説グレートギャツビーで描かれていた夢と現実の葛藤をその当時のメイクを参考に作成しました。キラキラとした夢のような華やかな世界にも必ずダークな部分があり、その光と闇も表現しました。また帽子は1970年代に映画化された際、ヒロインのデイジーが着用していたクローシュハットをイメージしました。



●審査員講評

「主にブラック&グレーシルバーだけをベースに華やかさ、暗さ、テーマの時代背景、コンセプトである光と闇が表現できているのが凄いです。アイメイクも丁寧に左右対称、綺麗に描けています。口紅の形と眉をあそこまで絞り、細めておきながら全体のバランスが崩れていない！コンセプトのように20年代のJAZZクラブの華やかなStar（タイトル）が流行りのファッションを楽しみ、自由への希望を持ちながらも、時代の恐慌、退廃的な闇を持つ者として表現されていると思いました。ヘアの飾りが時代にマッチ。素敵です。」 (MOTOKO)

第16回IBF主催メイクアップフォトコンテストのテーマは「Jazz Age throwback」。

狂騒の1920年代、Jazz Ageとも呼ばれるこの時代を謳歌する女性を現代に蘇らせるという難題でした。

1918年から1920年ごろにはちょうどスペイン風邪が世界中で猛威を振るっており、100年後、奇しくもコロナ禍真っ只中の今、このテーマを決めさせていただきました。

難しいテーマ、そして時節柄モデル選びや撮影現場でも苦労されたことと思いますが、今回も素敵な作品がたくさん集まりました。そんな中見事にグランプリを受賞したのは、大阪モード学園の宮城萌美様。宮城さんは、MOTOKO賞、M・A・C賞、ケサランパサラン賞も受賞となりました！IBFがメイクアップフォトセッションにご招待します！

その他、各賞受賞の方、おめでとうございます！協賛各社から賞が送られます。

前回に引き続いて会報誌では特別にページを割いて、審査員MOTOKOがセレクトした作品もご紹介します。

今回も「どうしても絞り切れない」とMOTOKO賞は複数受賞、その他Linda Mason賞、IBF賞の作品、最終選考に残った応募作品とともに、増ページでご紹介しておりますのでぜひご覧ください。

Awards Winning Works

審査員MOTOKOの希望で今回も特別賞を設けました。IBF賞も併せてご紹介します。

※MOTOKOより…今回もとても甲乙つけがたく、MOTOKO賞には4作品選ばせていただきました(前ページの2作品と本ページ2作品) 技術と全体のバランスが優れている4人の作品にJAZZが演奏されている場所/JAZZの音楽が聞こえてきそうな雰囲気中存在する女性のイメージが想像出来たからです。

【MOTOKO賞】



中塚 唯 《娯楽》

■中塚 唯 (ECCアーティスト美容専門学校)

タイトル 《娯楽》

コンセプト: Jazz Ageの時代を生きる女性をイメージしました。社会や日常へ感じる虚しさから娯楽を楽しむ女性を表現しました。

審査員講評: 「アイシャドウの色やメイクテクニックが今風なのに20年代の街にタイムスリップしたようなイメージがあります。モデルの表情とアイシャドウの形でコンセプトの虚しさ感を出しながら20年代JAZZクラブの歌手か女優(雰囲気から想像!笑)が社会、日常の狂騒から逃れて娯楽を楽しむため出入りしている様子が想像できました!(コンセプト通り)メイクの色の使い方が素敵。ヘアスタイル、帽子、小物、メイクのバランスが絶妙。」(MOTOKO)

■水谷 優香 (IBF正会員)

タイトル 《ダンスホールの女》

コンセプト: 狂騒の20年代、女性が解放され、快楽や性への考え方など新しく変化し、ダンスやジャズを愛する女性は思いのままのおしゃれをしダンスを楽しんでいる。しかし心の中ではフラッパー女優を目指し瞳の奥を輝かせている。そんなイメージで作りました。

審査員講評: 「タイトルの通り、20年代JAZZ演奏のダンスホールに絶対いそうな女性でした!ホールの中でも目立つ存在。またコンセプトのようにフラッパー女優目指し感ありあり。(ドレスと全体像が容易に想像付きます 笑)メイクはシンプルなのですが、綺麗でテーマそのもの。自眉を綺麗に隠し20年代の代表的眉を綺麗に描いています。アイシャドウの色もヘアの飾りとマッチング。素敵な20年代女性として描かれています。」(MOTOKO)



水谷 優香 《ダンスホールの女》

MOTOKO 特別賞



石河 恵 《POPART JAZZ AGE》

■石河 恵 (IBF正会員)

タイトル 《POPART JAZZ AGE》

コンセプト: 1920年代のメイクの特徴をオマージュしつつポップアートのコミカルな要素を入れることでジャズエイジへのアイロニーを感じさせるような表現を目指しました。

審査員講評: 「Pop artなセンスが光っています! 眉と鼻筋まで伸ばしたアイシャドウの色調とラインの描き方が絶妙で綺麗です。唇の赤に白のポイントがとてもおしゃれ。竹久夢二の世界とアメリカンアニメがリンクしたような感じは、新しいです。」(MOTOKO)

■亀田 まとい (ECCアーティスト美容専門学校)

タイトル 《Sadness》

コンセプト: 時代の流れを悲しむ女性を表現しました。20年代に流行したパールのネックレス、オールウェーブヘアに細く垂れた眉毛、目の周りを囲む黒のアイシャドウをしています。ですがオールウェーブを歪な構成にし、時代が進み気持ちの整理がつかない複雑な気持ちをイメージしました。

審査員講評: 「髪の流れ色艶、アクセサリそしてメイク!とても好きな作品です。自分には持っていない発想。大胆なアイシャドウの範囲。メイクのポテンシャルが高いです。細眉の位置と線の描き方が全体像にエッセンスを与えてとても素敵。そしてコンセプトのように悲しさ、迷い、心の複雑感も表現されています。」(MOTOKO)

亀田 まとい 《Sadness》



【MOTOKO Special Prize “Art賞”】【IBF賞】



三好 未希 《Polyrhythm》

■三好 未希 (大阪モード学園)

タイトル 《Polyrhythm》

コンセプト：ジャズエイジと命名した作家は「芸術過剰風刺の時代であった」と語っています。大げさなメイクで過剰を表し、フラッパーをモチーフにしたヘアに新聞紙を利用し、背景に踏み荒らされた新聞紙を使うことで政治に興味がなく享乐的だった時代を感じさせるように「芸術」「風刺」を表しています。女性らしさではなく自分らしさで生き、新しいモラルが誕生した当時の世界観を創り上げました。1920年代すべてを詰め込んだポリリズムな作品です。

審査員講評：「眉はどんな素材が使われたかとても興味があります。細い黒のwireのようなもので20年代眉を表現したアイデアが素敵!! スモーキーメイクをブラシ立てした眉毛まで垂直に伸ばし且つ下瞼にホワイトインライナーと付け睫で強調させたことによって生じる、アート性が眉と唇に反映してタイトルである「Polyrhythm」に繋がるのかなと想像しました。」(MOTOKO)



佐藤 夢真 《Reclamation》

【MOTOKO Special Prize “タイムトラベル賞”】【IBF賞】

■佐藤 夢真 (ECCアーティスト美容専門学校)

タイトル 《Reclamation》

コンセプト：“reclamation”は再生という意味があり、20年代のJAZZ AGEがこの現代に再び誕生したら…というイメージの作品にしました。JAZZ AGEを代表するフィンガーウェーブを金と赤の毛を使うことでインパクトを出し、現代風に仕上げました。

審査員講評：「20年代のjazzyな女性…、時空をくぐり再生されたというイメージは山本寛斎ISSEY MIYAKE等が似合うedgeがきいたクールさが良いです！ 眉毛とスモーキーアイズがとても綺麗。20年代の流行フィンガーウェーブに赤を入れることでインパクト大。コンセプトの通り現代風になっているけど20年代の雰囲気も十分にあり素敵です。」(MOTOKO)

【IBF賞】



間 至恩 《powerful woman》

■間 至恩 (専門学校九州スクール・オブ・ビジネス)

タイトル 《powerful woman》

コンセプト：戦争を乗り越え強くなった女性をイメージしました。1920年代では女性の参政権が認められ、選挙権における平等な女性の権利運動が画期的となり、当時流行していたフラッパーなど女性たちは革命的な変化をもたらしました。その時代を強く生きた女性をエネルギッシュな赤色と跳ね上げアイラインで表現しました。

審査員講評：「インパクトがある鮮やかな赤色がとても映えます。見落としがちである手や腕の肌作りのケアもできており、完成度が高いです。」(M・A・C工藤)



小玉 麻菜 《eclat》

■小玉 麻菜 (大阪モード学園)

タイトル 《eclat》

コンセプト：狂騒の20年代のシンボルであるポプカットやスモーキーアイのメイクを現代風のフラッパーとして表現しました。タイトルである「eclat」のように華々しさ、豪華さをヘアメイクやネイルに落とし込み、唯一無二の女性を演出しています。

審査員講評：モデルさんから輝きが生まれている良い作品です。アイメイクのスモーキーアイズ、アイラインとつけまつげも細かく、良く表現されており、黒のリップカラー選びや質感も洗練されています。(MONIKA)

香咲 弥須子 Profile

IBF理事。New York在住スピリチュアルカウンセラー。
NY Downtownにてヒーリングクラス及びカウンセリングセンターを運営。

作家、翻訳家、エッセイストとしても活躍している。

隔離期間、二つの訃報に。

1年ぶりに帰国したら、自主隔離期間が昨年よりずっと厳しくなっていました。厚生労働省から一日5回のチェックがアプリで入り、その中には、「マスクをとった顔を写して部屋の中も見せてください」というビデオ通話もあります。朝の8時前から夕方6時過ぎまで無作為に入るので、近くのコンビニまでの外出もままなりません。ちょっと外に出るだけで、「すぐに指定の場所に戻りなさい」と警告が入ります。「今すぐ今日の健康状態を送信してください」というのも入ります。なかなかプレッシャーを与えるシステムになっていて、これが、私たちが帰国を渋る理由の一つになっています。海外旅行も躊躇なくできるようになるのはいつのことでしょうか。

そんな隔離の日々のある日の朝刊で、パウエル元国務長官が亡くなったことを知りました。

最近訃報が続くせいか、涙腺が緩んでいます。でも何よりも、私はパウエル氏が好きだったのです。個人的に存じ上げているわけではありませんでしたが、一アメリカ在住民として、応援し、晩年の健康を陰ながら祈っていました（考えてみれば、自分が住んでいる国の要人に心から祈りを捧げられるというのは幸せなことですね）。

アメリカ国軍はかつて、白人のみの組織でした。それが、人種や出身国を問わないという法律に変わってまもなく、入隊した方です。ジャマイカ移民の息子でニューヨーク生まれ。私だけでなく、彼の動向をよく見つめ、彼の発言に耳をそばだてていた人は多かったはず。日本でも、孫正義氏が「尊敬するリーダー」としてパウエル氏を挙げていらっしゃいました。

そのパウエル氏、大きな間違いを犯しています。イラク戦争を引き起こすきっかけを作ってしまったのです。サダム・フセインが大量破壊兵器を持っている（実は持っていなかった）という情報を、最後まで疑っていたパウエル氏でしたが、CIA長官からの「確実な筋からの確実な情報」という明言を、当時の大統領が信じ、大統領を取り巻く他の全ての人々が信じ、パウエル氏が最後の一人に残り、そして、ついに信じざるを得ない状況となって、そのままを国連で発表してしまったのです。

確実な筋というのは、もちろん諜報機関のことで、情報提供はスパイによってなされます。その“筋”にも間違いがあるのです。

パウエル氏は後になって「私は大きな間違いを犯した」と何度も話し、深い後悔を表明していました。

そのパウエル氏の訃報です。政治的意見を異にした人たちも含めて、大勢がその死を悼みましたが、それを猛烈に批判した海外メディアも少なくありませんでした。曰く、「人々を戦争に巻き込み、大勢の命を奪う過ちを犯した人間をゆるすのか」。曰く、「まるで英雄視しているようじゃないか」と。

どう考えますか？ 過ちは誰にでもあります。「でも、ロイヤルコペンハーゲンのカップを誤って割ると、戦争を仕掛けて大勢の人を殺傷するのではわけが違う」と言うのでしょうか？ ならば

どこでその「わけの違い」の境界線が引かれるのでしょうか？

ゆるせない、と思うとき、その心の中心に居座っているのは、どんな信念なのでしょう。

ゆるせないのは、ヒトラーやスターリンだけではないかもしれませんが。身近な家族、大事なパートナー、親友たちをゆるせないと感じることもありますよね。

パウエル氏に続いて、私にとってとても大事な人の訃報が続きました。『奇跡のコース』を世に出して、その教えを正しく世界に伝えるために生涯を捧げた人です。

その人、ジュディス・スカッチ・ウィットソンが若い頃、ジェラルド・ジャンボルスキー氏と出会い、仲良くなりました。仲が良ければ喧嘩をします。カッと頭に血が上っているジュディスは、『奇跡のコース』の仲間、ビル・セットフォードに電話をします。若い女性が、いかに相手に非があるか、若い女性（とは限らない？）が、いかに相手が“わからずや”であるかを友人に聞いてもらわずにいられないのは、世界共通のようです。この話を、私は以下のように聞きました。延々とまくし立てるジュディスに、ビルは静かに言ったそうです。「ジュディ、『奇跡のコース』で学んでいることを思い出そうよ」「君は、相手の“罪のなさ”を見たいの？ それとも彼を罪人に仕立てたいの？」。

それが『奇跡のコース』が教える真実です。誰もが過ちを犯す。けれども、誰一人、罪はない。過ちを見たのは自分自身なので、過ちを見た自分を訂正すれば、相手の“非”は消滅します。相手は自分の心の鏡だからです。「自分は不十分。相手も不十分」という信念（私たち全員が持っている根深い信念）こそが、「ほらやっぱり！ ダメじゃない！」という証拠を作り出すのですね。

その証拠を見ている最中、私たちを貶めようとするエゴは、それこそワクワクして喜んでいきますから、「罪のない兄弟を見る」「自分も相手も完璧」と、心の初期設定を変更するなどという提案には耳を貸すはずがありません。ジュディスがおさまるわけありません。その時、ビルは「でも、そうすれば君の気分はずっとよくなるよ」と言って、電話を切るのでした。

ゆるしたくない、相手の罪をなんとかしても非難し続けたい、という衝動は、遠くの国のリーダーにも、親しい人にも湧いてきます。私たちは、“ゆるせない”人を日々作り続けることで、自他の“足りなさ”“不確かさ”“恐れ”をなんとかして保とうとする摩訶不思議なことをしているのですね。

ジュディス・スカッチ・ウィットソン。享年90歳。彼女は、若き日、ビルに言われたことだけを実行し生きました。彼女にとって、見知らぬ人、足りない人、などは存在せず、彼女と会う人は誰もがその家族の一員のように迎えられました。彼女は誰の足りなさも見ない。そうすることで、私たちを確かに癒し、また、過ちを訂正する機会を与えてくれました。今、私たちは、「私はあなたです。あなたが完璧な家族の中で生きる時です」と彼女に声をかけられているのが確かに聞こえてきます。

■IBFビューティプロショップからキャンペーンのお知らせ！

IBFビューティプロショップではプロ及び学生の方にヘアメイク関連商品を販売しております。IBF会員、NYMA受講生はそれぞれ割引価格で購入することができます。2021年、年末までキャンペーンを行いますので、ぜひご利用ください。キャンペーンは一般の方も対象になります。

【キャンペーン期間：2021年11月27日(土) 00:00～2021年12月31日(土) 23:59】

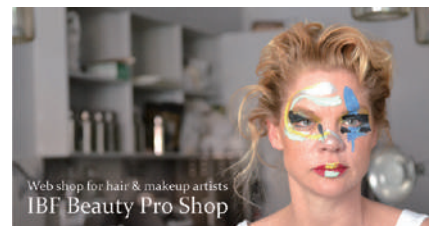
【キャンペーン内容】

- ①ショップ会員新規登録の方に500ポイント(500円相当)もれなくプレゼント！
期間中にショップ会員として新規登録された方全員に500ポイント進呈します。
※既に一度登録されている方は対象外。
- ②期間中商品購入された方にポイント2倍付与！
商品を購入されると通常5%のところ2倍の10%分のポイントを付与します。
期間中何度でもご利用可能。

【新規登録方法】

ショップ会員未登録の方は以下から新規登録して500ポイントゲットしてください。

<https://www.ibf.or.jp/shopping/entry>



新規登録後、受講生、会員、一般の種別をショップで確認し、翌営業日までに、「会員登録完了」のメールを差し上げます。その後ショップ会員としてログインし、ご利用ください。

IBFビューティプロショップ <https://www.ibf.or.jp/shopping/>

■IBF会員情報再登録のお願い

IBF正会員の方、NYMA受講生の方で、IBFからメールマガジン(月間1-2通配信)が届いていない方は正しいメールアドレスが登録されていません。IBFでは、重要事項も含めて、メールでお知らせする方法に切り替えておりますので、IBF会員の皆様には正しいメールアドレスの登録、再登録をお願いしております。大変お手数ですが、該当者(IBFからメールマガジンが届いていない方)は以下のフォームよりメールアドレス登録の更新をお願いいたします。

《メールアドレス登録(再登録)フォーム》https://www.ibf.or.jp/update_mail_address/update_form.html

※アップル社ドメイン「icloud.com」をお使いの方へ

アップル社のセキュリティの都合でメールマガジンなどが届きにくい現象が続いています。「icloud」以外のメールアドレスまたはGmail.comなどフリーのメールアカウントを取得してそちらのアドレスで再登録していただきますようお願いいたします。



登録フォーム

■スクーリング、セミナー等について

IBF、NYMAでは、引き続きオンライン/会場開催を併行してスクーリング、セミナーを開催します。ウェブサイトやメールマガジンの情報をチェックしてください。今後も、引き続きヘアメイクアップアーティスト、あるいは学生様においても、モデルさんやクライアントも含めて衛生管理に十分注意をしていただきたくお願いいたします。

◆◆◆スクーリングのお申込みはIBFビューティプロショップからチケットをご購入ください。◆◆◆

https://www.ibf.or.jp/shopping/products/list?category_id=30



IBFビューティプロショップ

■N-001 メイクアップ講座オンラインスクーリング (Zoomを使用します)

Zoomを使ったオンラインスクーリング。講師と一緒にベースメイクから始めてフルメイクまで認定試験重要課題の「ウェディングメイク」をセルフメイクで行います。2022年認定試験受験を予定している方、受講開始して間もない方、レッスンがストップしている方、ぜひご参加ください。スクーリングでは講師によるチェック&アドバイス、質疑応答もできます。講師と実際に対話しながら進行しますので、レッスン上の不安解消、疑問点の解消にも丁寧に対応します。カメラ/マイク付きのPCまたはスマートフォン、タブレット端末とWi-Fiなどネット環境があればどこからでも参加可能です。

開催日時：

2021年12月20日(月) 10:00-12:00 ウェディングメイク

2021年12月23日(木) 10:00-12:00 ウェディングメイク

※120分(休憩あり、質疑応答含む)

参加時必要なもの：

- ・カメラマイク付きPCまたはスマートフォン、タブレットなどと常時接続可能な回線環境。



・教材メイク道具、鏡、NYMAテキスト(3冊)

※セルフメイクで行います。メイクを落とした状態で参加してください。

定員：各回6名まで

参加費：1回2,750円(税込)

参加資格：直轄校NYMAホームスタディ受講生のみ

申込：IBFビューティプロショップでチケットを購入してください。

■N-002 メイクアップ講座スクーリング (会場開催)

今回は東京、大阪会場で行います。シャープメイクのレッスンを
行います。講師から直接指導を受けられるので、在宅でのレッス
ンに不安がある方にもオススメ。ベースメイク・アイメイク・リッ
プ・チークの各パーツをテーマに沿ってレッスンします。各参加
者のレベルに合わせた指導が可能ですので、レッスンを始めたば
かりの方もご参加いただけます。

※ホームスタディコース受講中の方は、どなたでも参加いただけ
ます。「シャープメイク」の課題提出を控えている方は写真撮影
も出来ます(ご自身のデジカメを持参のこと)ので積極的に参
加しましょう。

申込受付期間：8月23日(月)～開催日の2週間前まで受付。
※最少催行人数3名。定員になり次第締め切ります。

開催予定地・日程：東京1月22日(土) / 大阪2月7日(月)
※各会場共通 13:00～17:30

定員：各3名～12名 ※会場により異なります。

参加費：短期集中講座受講中の方(履修票、レッスンガイドに
[短期集中講座]と記載されている方)5,500円(税込)
※上記以外のメイク講座受講生は参加費無料です。

参加資格：直轄校NYMAホームスタディコース受講生のみ。
※申込者が3名に満たない場合は開催中止となります
のでご了承ください。



※男性受講生は女性モデルを同伴してください。(必須)
持参物：NYMAテキスト(3冊)・鏡(サイズ：縦30cm×横
20cm程度)・筆記用具・レッスン用化粧品一式・コッ
トン・ティッシュ・綿棒等。
※参加申込者には改めて詳細をお送りします。
申込：IBFビューティプロショップでチケットを購入してく
ださい。

■スクーリングのお問い合わせ

NYMA指導部 TEL：03-5928-0130 (受付時間/平日9:30～18:00) customer@nyma.jp

■IBF国際美容連盟認定 第76回 国際メイクアップアーティスト試験
第46回国際メイクアップアーティストインストラクター資格認定試験のご案内

2022年1月受験 在宅試験実施要項

受験資格：IBFが指定する各スクール所定のカリキュラムを修
了し、修了証書を有している者。

願書配布：2021年11月1日から配布。受験対象者にはスクー
ル指導部から送付します。お手元に届かない場合
はIBFへ直接請求してください。

受験料：国際メイクアップアーティスト11,000円(税込)
インストラクター 16,500円(税込)

受験料振込先：みずほ銀行 大塚支店 普通預金 2292633
口座名：一般社団法人国際美容連盟

振込期間：2022年1月5日(水)まで

願書提出期限：2022年1月5日(水)〈当日消印有効〉

願書提出先：〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-25-9 今井ビル5F
国際美容連盟 試験審査委員会 宛

試験問題発送日：2022年1月14日(金)

解答用紙の提出期限：2022年2月4日(金)〈当日消印有効〉

試験科目：実技/筆記(実技試験にはモデルが必要になります)

合否発表：2022年2月25日(金)(郵送予定)

登録期間：合否通知到着後～2022年3月18日(金)
※合格後の手続きになります。

登録料及び年会費：

国際メイクアップアーティスト：登録料…33,000円(税込)
年会費…13,200円(税込)

インストラクター：登録料…16,500円(税込)
年会費…13,200円(税込)

※既にIBF正会員の方は年会費を重複していただくことはありません。

認定証発送：2022年4月1日(金) 発送予定

願書請求・お問合せ先：IBF国際美容連盟 03-5928-3800(代)
(受付時間/平日9:30～18:00)

◆◆◆セミナーのお申込みはIBFビューティプロショップからチケットをご購入ください。◆◆◆

https://www.ibf.or.jp/shopping/products/list?category_id=30



■IB-001 オンライン【男性メイクアップ講座 -Makeup for men-】

近年注目を浴びる男性メイク。身だしなみとしてメイクアップをする男性も確実に増えており、男性化粧品市場も拡大を続けています。男性がメイクをする目的もさまざま。健康的で清潔に見えるように、あるいは精悍で、若々しく見えるように。他にも韓国のアーティストのようにムラやくすみがなく完璧な肌を作りたい、目力を出したい、小顔に見せたいなどなど。今回は、男性モデルを招いて、IBF本部主任講師、鎌林泉が男性用メイクをレクチャーします。ヘアメイクとしては男性タレントなど男性へのメイクアップは避けて通れません。でも練習する機会が無いという方も多いことでしょう。仕事の幅を広げるためにも是非ご参加ください。男性モデルを使って講義、デモンストレーションを予定しています。

日 程：2022年1月29日(土) 10:00-11:30

費 用：IBF正会員 3,740円(税込)

受講生 3,960円(税込)

一般 4,400円(税込)

講 師：鎌林 泉 (IBF本部主任講師)

申 込：IBFビューティプロショップでチケットをご購入ください。



◆◆◆セミナーのお申込みはIBFビューティプロショップからチケットをご購入ください。◆◆◆

https://www.ibf.or.jp/shopping/products/list?category_id=30



IBFビューティプロショップ

■年会費口座振替のご案内

【重要】IBF国際メイクアップアーティスト正会員年会費の口座振替の事前ご案内(郵送)は控えさせていただいておりますのでご了承ください。IBFの年会費13,200円は毎年1回、会員登録時にご提出いただいた口座振替依頼書記載のご指定口座からIBFが指定した月(5月/8月/11月/2月のいずれか1回)に自動振替させていただきます。指定月の27日(27日が金融機関休業

業日の場合は翌営業日)に振替させていただきますので、前日までに口座残高の確認をお願いします。

※今回は正会員番号の上7桁が1000002又は上4桁が1002の方が対象となります。振替日は2022/2/28(月)になりますので2022/2/25(金)迄に残高確認をお願いします。

※振替完了通知は行っておりませんので予めご了承ください。

■IBF国際美容連盟のオフィシャルSNS等のご案内

美容やファッション等に関する様々な情報を配信しています。たくさんの方に良い情報を配信していきたいと思っておりますので、お楽しみに♪

★Facebookのページはコチラ→

<https://www.facebook.com/ibfjapan>

★Twitterのページはコチラ→https://twitter.com/ibf_japan

★Instagramのページはコチラ→

https://www.instagram.com/ibf_insta/

★NYMAのLINEページ

・パソコンからのご登録はコチラ→<https://lineat.jp/nyma>

・スマホからのご登録はコチラ→

<https://line.naver.jp/ti/p/%40nyma>

★NYMAスタッフブログのページはコチラ→

<http://ameblo.jp/nyma-make/>

★youtubeチャンネルのページはコチラ→

<https://www.youtube.com/user/nymamovie77>

★鎌林泉講師の大人ナチュラルメイクのコツはコチラ→

<https://www.nyma.jp/lp/around30/>

■求人情報

求人情報をIBF国際美容連盟ホームページで公開しております。

URL <https://www.ibf.or.jp/>

より多くの求人情報を公開できるよう、求人企業様との窓口を変更し、随時公開しています。現在までに公開した求人情報提供企業様の一例です。(現在募集終了しているものもありますのでウェブサイトでご確認ください。)

(順不同) M・A・C / BOBBI BROWN / エスティローダー / RMK / ADDICTION / JILLSTUART / ポール&ジョー ボーテ / shu uemura / ランコム / そごう・西武 / 高島屋 / 三越伊勢丹 / ファンケル / オルビス / ちふれ化粧品 / アトリエはるか / ケサラン / パサラン / カバーマーク / Dior / ジバンシイ / THE BODY SHOP

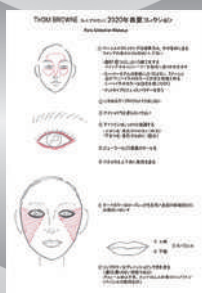
※求人情報一覧にはパスワード入力が必要な情報も含まれますので、以下のID及びパスワードを入力の上、ご覧ください。

ユーザー ID : user パスワード : ibfjob

NYMA Special Class “Back Stage Trend Makeup”

ニューヨークメイクアップアカデミー、ダブルマスター通学コースの後半授業は、トップアーティストを迎えた特別授業が続きます。最初にお迎えしたのは、ヘアメイク事務所プリズム・プリズム代表、TVなどで活躍中のメイクアップアーティスト名取瞳講師。林先生が驚く初耳学！（TBS）、ビューティブライド（日本テレビ）、ニンゲン観察バラエティ『モニタリング』（TBS）などでご覧になった方もいらっしゃると思います。

ジョディ・フォスター、チャン・ツイー、キアヌ・リーブス、ジョージ・クルーニーなどハリウッドスターのヘアメイクを担当、あのアナ・ウインターのメイクアップも担当したことがあるという、まさに日本を代表するトップアーティストの一人です。



今回名取講師に担当いただくのは「コレクションメイク」の授業。世界のコレクションバックステージトレンドから2つを選び、実際にそのメイクアップにトライするという内容。今回名取氏がチョイスしたのは、ミラノコレクションからMAX MARA 2020S/SとパリコレからTHOM BROWNE 2020S/Sのバックステージトレンドメイク。

名取氏自ら、手書きで作っていただいた、メイクアップレシピには、ベースメイク、アイブロウ、アイメイクなど細かくポイントと注意点などが記載されています。



授業はそのレシピに基づいた講師によるデモでスタートし、その後、各受講生が相モデルで同じメイクアップに挑戦するという内容。最後に、一人一人、そのメイクアップを講師がチェックし、修正。名取講師が今回選んでいただくポイントとしては、ベーシックで、取り組みやすいメイクで、しかもコレクションならではの非日常感、ブランドのコンセプトを感じさせるメイクアップ。



授業の合間などに、名取講師からは、ニューヨークやパリ、ミラノなどのコレクションに参加したときの経験談、海外で活動する場合のアプローチのしかたなど、ここでしか聞けない内容のトークもたっぷりの充実した授業でした！

Makeup Lesson for Miss Nippon Contest Finalists

IBFが協賛、応援しているミス日本コンテスト、全国の予選を勝ち抜いたファイナリスト13名が決定しました。彼女たちは2022年1月の本選に向けているいな分野で勉強会に参加し、内面、そして外面の美に磨きをかけていきます。その勉強会のメイクアップ部門を毎年IBFが担当。今年もIBF本部講師の鎌林泉が熱のこもったレッスンを行いました。

ミス日本の勉強会の中でも、これを楽しみにしていたという参加者もいらっしゃるようで、皆さんとても真剣にレッスンを受けられました。

EXPRESS YOURSELF! “Fresh & Clean” makeup for vivid life.

自己表現一爽やかな清潔感、生き生きとした自分を表現するために

勉強会のタイトルは、このようにさせていただきました。冒頭鎌林講師から参加者の皆様にお伝えしたのは「メイクアップはすればするほど老けて見える！」ということ。若い方、10代の方などは、何もする必要が無いのに、メイクをしまって、失敗しているケースも多いんですね。ほとんどはファンデーションもいらない、チークもいらないのになぜか厚塗りして、実年齢とはかけ離れた印象になってしまう方を見るととても残念。と鎌林講師。



レッスンに入る前に、この勉強会では恒例となった、全員の持ち物チェック。持ち物と言っても化粧ポーチ。全員がポーチの中身を机に広げて、参加者がそれぞれ他の方がどんな化粧品を持っているのか？ クリーンな状態になっているか？ などを見て回ります。メイク道具は清潔に、汚れたブラシ、色が飛び散ったパレットなどがあるようではNGですね。



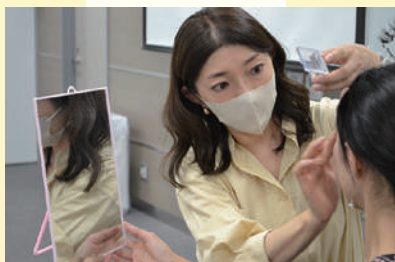
メイクレッスンは、講師の指導のもと、各自がベースメイクからポイントメイクまで仕上げていくスタイルで行います。普段しているメイクとプロが教えるメイクで大きく違う点もあり、皆さんに配ったフェイスチャート（顔画）がメモで真っ黒になっている方も。一通りメイクが終わったら、「隣の人の顔を見てみて〜」と講師が声をかけます。そしてお互いに、メイクアップの感想を伝えあいます。皆さんとてもきれいにメイクできているようですね。そして、今度はスマホで撮影。客観的に見ることができると鏡と同様、写真で撮影することによって、自分のメイクをしっかりとチェックできます。



後半は、いよいよファイナリスト全員に一人ずつ講師からアドバイス、メイクチェックをします。アイブロウ(眉)で悩んでいる方が特に多いのは毎年同じです。

一人約5分ほどですが、全く時間が足りなくらい、ベースメイク、アイメイク、リップ、チークなどまさにメイクアップ相談室状態。

この日学んだことをこれから本選までの期間、各自メイクアップのスキルを上げて、最高の状態でグランプリ決定の日を迎えていただきたいですね。



ファイナリストの皆様をご紹介します。

(写真後列向かって左から一敬称略)

山本 紗也 (26歳、花関連経営者)、相馬 あすか (21歳、京都外語大学生)、横田 陽菜乃 (22歳、養護教諭)、
属 安紀奈 (22歳、大妻女子大学生)、成田 愛純 (19歳、モデル・女優)、河野 瑞夏 (21歳、国際基督教大学生)、
西園寺 可蓮 (21歳、甲南女子大学生)、土屋 佳蓮 (21歳、青山学院大学生)

(写真前列向かって左から)

横山 莉奈 (21歳、東京医科歯科大学生)、佐藤 梨紗子 (21歳、大妻女子大学生)、

鎌林講師、奥田 香綸 (20歳、東京大学生)、飯島 由佳 (24歳、復旦大学生)、

※当日都合により出席できなかった、守田 栞 (24歳、国家公務員)さんを含め13名で2022年1月24日の本選会に臨みます！

皆さん、頂点を目指して頑張ってくださいね！

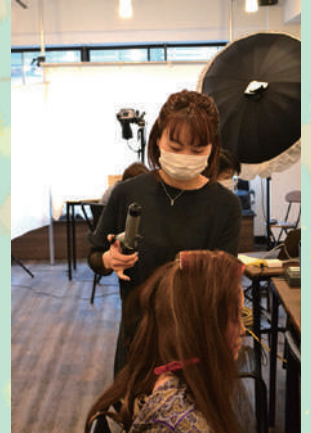


IBF Pro Team Activities

IBFプロチームはIBF正会員が登録できるヘアメイクのプロチームです。プロチームには、IBFに入ってきたヘアメイク案件をお願いしています。今回ご紹介するのは、伊藤佳南子さん。最近ではミス日本の撮影や映画、舞台のヘアメイク案件などで活躍していただいています。伊藤さんにお願いしたのは、IBFの提携団体FDAフラワーデコレーター協会のウェブ素材撮影のヘアメイク。



フラワーデコレーターが花束やブーケを作っている様子を撮影するという現場です。FDAスタッフ、フォトグラファー、モデルさんと軽くブリーフィング、撮影の進行予定を確認し、さっそくヘアメイクスタート。ヘアメイクのリクエストは前半がナチュラル、後半がエレガントというもの。こういう現場の場合、注意が必要なのは、このキーワード。どこまでがナチュラルなのか？どんなイメージでエレガントというワードなのか？



人によって捉え方が違うため、思い込みで進行すると、何度もヘアメイクをやり直すというようなことにもなりかねません。最初のブリーフィングで、お互いに誤解が無いように、イメージのすり合わせというのをしっかりしておくことが、とても重要です。

もう一つ、撮影の主体、中心がどこにあるのかも常に意識する必要があります。モデルの魅力を引き出すのか、洋服、衣装なのか、現場によっては、それが家具だったり、アクセサリーだったり、それぞれ主体が違います。今回は、もちろん「花」「フラワーアレンジ」が主体ですね。モデル、ヘアメイク、衣装、背景などもすべて主体である「花」を引き立たせるようなイメージを全スタッフが共有することが何より重要です。

例えば、衣装の色合いが花の色を邪魔していないか、モデルのヘアが花にかぶってしまっていないか、撮影中にも気を配っておく必要があります。



ヘアメイクはヘアメイクだけやっていたらよいという現場はそんなに多くはないはず。その撮影が成功するか否かは、撮影に携わる全員が高いモチベーション、集中力で撮影に臨むことができているかが大きなポイントになります。今回おそらく伊藤さんにとっても、「花」の撮影というのは初めてのことだったでしょう。とてもよい経験にもなったと思います。今後もますます活躍してくださいね。



NYMA Special Class “Special Effect Makeup by TEMPTU”

こちらの特別授業は、特殊メイクで有名なTEMPTUプロデュースのフェイスペイント。講師はTEMPTUアーティストの奈須みゆきさん。特殊メイク、タトゥーメイク、エアブラシメイク、フェイス、ボディペイントなどで多くの映像作品、舞台、イベントやショーなどに関わってきたアーティストです。今回TEMPTUから提供いただいたプログラムは、水性ペイント剤、パレットを使ったフェイスペイント、そしてスカル（骸骨）メイク。



授業は特殊メイクの道具、化粧品などの解説から始まります。ペイント系からスポンジ、ブラシまで、ほとんど見たことが無い形状のもの、どうやって使うのかわからないものなど、その種類、数の多さに圧倒されます。

ここで紹介されたもの以外にも、用途に合わせて道具を自分で作ってしまう方もいるようで、アカデミー賞を受賞したKazu-Hiroさんなども道具は自作のものが多いとか。

続いて、ペイントの基本、唐草模様（アラベスク）やグラデーションを腕などに描く練習。



そして、いよいよスカルメイクに挑戦です。それぞれ自分の顔をあちこち押ししながら、骨格、骨や骨が無い部分の位置を確認します。

どこまでリアルに作れるかは、根気強く細かい作業がどれだけできるかにかかっています。陰影のつけ方、骨に入るすべてのヒビ、歯にも1本1本にそれぞれ陰影をつけていきます。こうすることによって、パッと見たときのリアリティが全然違ってきます。この後、傷メイクの基本も練習しましたが、傷メイクでもスカルメイクでも言えるのは「左右対称に美しく」というビューティメイクとは正反対にしなければならないという点。色ムラがあり、不規則な形、ラインを作るという点に普段習っているメイクとあまりにも違うので戸惑った方もいたようですが、最後は結構リアルな骸骨になって記念撮影。皆さんおつかれさまでした。

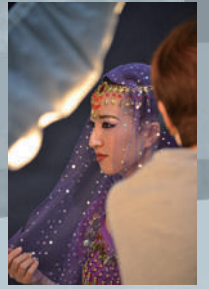


NYMA GRADUATION WORKS

NYMAニューヨークメイクアップアカデミーのダブルマスター通学コース、最後の授業は卒業制作。
写真スタジオで各自モデルを用意し、ヘアメイク作品をプロのフォトグラファーが撮影するという授業です。
初めて本格的なスタジオに入るという方も多く、プロのフォトグラファーとの撮影も貴重な経験になりますね。



作品撮りでは、「どんな写真を撮りたいのか」明確なコンセプトを準備できるかが鍵となります。「何も考えていない」という方は、あまり納得できずに終わってしまうことが多いです。
ヘアメイク時間は2時間、撮影時間は30分と時間が決められていますので、しっかりと準備しないと、あっという間に時間が来てしまいます。



持ち物も重要ですね。初めて入るスタジオにはどんな設備があるのか？鏡はあるの？電源ケーブルは？化粧品なども、「必要ないかもしれない」「たぶん使わない」というものは持ってこないという人、「絶対使わないと思うけど」と、念のため持って来る人。ヘアメイクとしては絶対後者が正しいです。もちろんロケなどで荷物を減らす必要があるような現場は別ですが。とにかくいろいろなものを持っていると思わぬところで役に立つことがあります。



今回は撮影が終了した後にモデルさんとツーショットで撮影したスナップを中心に、作品写真、メイキングの様子を写真でご紹介します。



室谷さん



後藤さん



桜井さん



上野さん



江頭さん



奥村さん



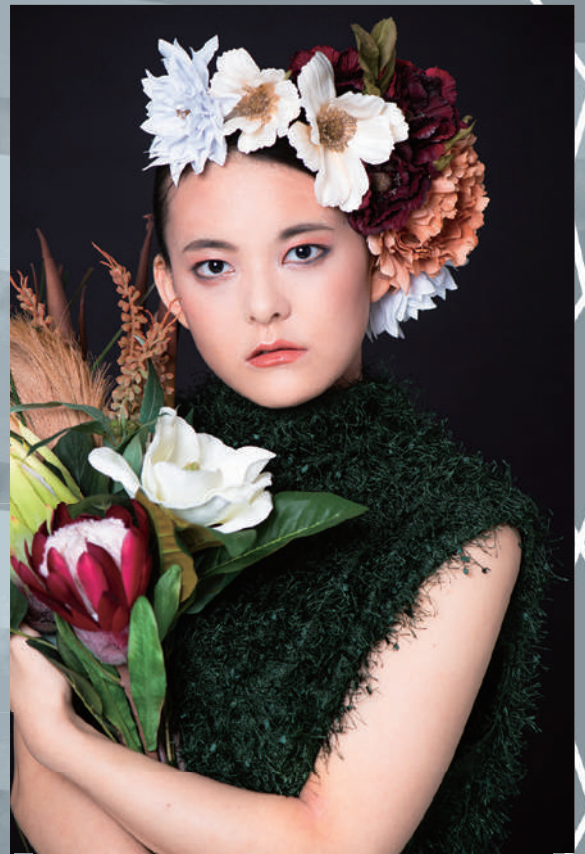
菅原さん



後鳥さんの作品



山口さん



山口さんの作品



後鳥さん



増岡さん



増岡さんの作品



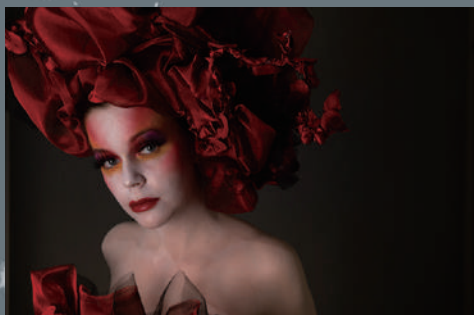
三浦さんの作品



三浦さん

皆さん卒業おめでとうございます！ 今後のご活躍をお祈りします！！

Congratulations!



Hair&Makeup:Yuka Iwai-IBF Photo contest(2019) winner Model:Oleysya Photo: Ayako